

平成26年 第1回教育委員会会議録（聞き取り調査）

招 集 年 月 日	平成26年1月22日
招 集 場 所	
開 会	9時00分 委員長宣告
出 席 委 員	井上教育委員長 立脇教育委員 内田教育長
欠 席 委 員	福田教育委員 川上教育委員

議 事 日 程		
議 事 の 経 過		
日程その他	発 言 者	発 言 の 要 旨
聞き取り調査 学校教育について	委 員 長 学 校 教 育	<p>学校教育について説明を求める。</p> <p>※ 資料に基づき詳細説明</p> <p>1 ふる里を活かした体験的な教育の展開</p> <p>地域の人材や教材を活用した学習プログラムについて、小学校では特別非常勤講師で神楽・米作り・音楽・木工を実施している。中学校においては、キャリア教育外部講師による学習、中学校3年生での起業学習を行なっている。また長期休業中の学習支援で、サマースクール・ウィンタースクールを13日間実施した。参加者数は、81名述べ646名の参加があった。ウィンタースクールについては5日間実施し、参加者数は63名述べ208名の参加があった。次に学習の基礎・基本の定着、基本的な生活習慣の定着について、各種調査の結果から、小学生・中学生では高い数値を示している。学習について小中学校では、書き取り会・計算会・パワーアップタイム・家庭学習頑張るウィークといった取り組みを通して、基礎学力の向上・学習習慣の定着というものを図ってきた。徐々に向上は見られているが、まだまだ十分ではなく今後の課題でもある。</p> <p>2 保・小・中の連携による教育と学力向上の推進</p> <p>保・小・中の連携による教育の推進について、合同授業研究会・合同研修会・戦略会議を行い連携した教育の推進を実施してきた。合同研修では北海道大学の鈴木誠教授による自己効力測定尺度を活用した授業デザイン研修、昨年度より取り組み始めた協調学習知識構成形ジグソー法による授業改善研修などを行なった。保・小・中一貫教育研究発表会も行い、小中学校ではジグソー法による授業を公開、小学校統合以来取り組んできた成果について発表した。授業評価という新たな視点を加えて、タブレット端末等の有効活用をしな</p>

がら、継続して今後も取り組んでいきたいと考えている。次に小中学校乗り入れ授業、少人数指導について、乗り入れ授業においては子供たちの感想として概ね満足といったアンケートの回答があった。少人数指導では、算数・数学・国語で実施し個に応じた指導を行っている。次に学力向上の推進では、今年度は協調学習実践校の視察やタブレット端末を活用した事業実践の参観など、教職員の研修の充実を図って事業実践に活かした。

3 家庭・地域の連携した教育の推進

学校・家庭・地域の連携による子どもの育成では、学校支援コーディネーターの取り組みについて、学校支援員連絡協議会を2ヶ月に1回行なってきた。今後も計7回を予定している。ボランティアの人数として現在50名登録している。登下校の見守り、図書館運営の補助、学校での体力テスト・マラソン大会などの補助、アフタースクール・サマースクール・ウィンタースクール、学習の支援や読み聞かせといった内容である。保護者研修として就学時検診において、新入生児童の保護者を対象とした研修会、家庭教育講演会を通して、保護者に対しての啓発を行っている。

4 学校教育を支える教育環境の充実

I C T教育の推進について、今年度タブレット端末を小学校4年生以上に配布している。今後はさらに協調学習での有効活用ということを考えていきたい。次に特別支援教育の充実について、子ども支援連絡会議を定例化し、課題を抱える園児・児童・生徒を各機関で情報共有をしながら進めてきた。スクールソーシャルワーカーの配置と活用で、他機関との連携を図りながら情報を共有しスムーズな対応、未然防止に取り組んでいる。来年度の重点施策として、学校・家庭・地域の連携を強化し、確かな学力を身につけるシステム（環境）作りを考えている。日南町の課題として、家庭教育の充実が、今後の大きな課題になると考えている。学習支援コーディネーターの活動をより充実・発展させ、さらに積極的な活動を展開すると共に、新年度新たに取り組みを計画している日南サポート事業との連携を図りながら、家庭・地域を巻き込んだ学力向上の基盤づくりを進めていきたいと考

<p>委員長</p>	<p>えている。</p> <p>説明があったが、質疑意見はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>キャリア教育を取り組んで4年になるが、当初から私は取り組みについては疑念をいただいている。もっとやることのあるのではないかと感じている。4年間の成果として、どのようなものがあるのか。事務局としてどのような評価をしているのか聞きたい。</p>
<p>学校教育</p>	<p>今年度6グループの起業発表が行なわれた。その様子を見ていたが、地域の使っていない施設を活用した起業プランや、スマホなどに目をつけた起業プランなど、より地域のことを考えたプランが出来ていると感じた。外部講師には起業ということの基本的な考え方をおさえながら、指導して頂いている。起業を目的にするということも大切だが、それを通して人との繋がりなどを学ぶという面でも、良い学習になっていると感じている。1・2年生から聞くことによって徐々に良いものが出てきていると感じる。</p> <p>外部講師について、当初進めようとする中では良い人材で、良い指導が頂けたと考えている。個人的な考えとして、子どもたちの発表の中身も年々充実している中で、日南町の中で考えるときに、更に違う目的を持つことも必要ではないかと考える。ただ単に発表ということだけではなく、町内の企業の方々も交えた展開も必要ではないかと考える。町内への刺激という部分でキャリア教育というものが位置づけられたら、町内の中でも大きなものとなって、みんなで考える場というものが出来るのではないかと考える。そういったことも今後、検討し直す必要があると感じている。</p>
<p>教育長</p>	<p>本来中学校長はこの地域に残る人材を育てたいという考え方を元に、キャリア教育、起業計画学習ということに取り組んだわけだが、すばらしいアイデアすばらしい起業計画を考えても、産業構造の中で単独でやっていくことは難しい。産業の連関ということがあって、地域の中での産業として成り立つというのが、今の日本の経済の仕組みである。そういう意味でいくら良いものを作ったとしても、今の日南町の現状では難しいものがある。その上において、中学校でこのような教育をすることは本当に適当なのかとずっと思っ</p>

		<p>いる。中学校1・2年生ではなかなかそういう認識には至らない。地域の産品を活用してビジネスに繋げるというような考えは、3年生でやっと出来るというようなことを校長も言っている。やっていることは斬新なもので、アイデアというものは大人には無い発想があるのも事実だが、それがビジネスという部分での実効性があるのかと考えると無い。時間を費やして学習しても社会経験も足りない、人・物の繋がり組織の繋がりという中でビジネスが成り立つという観点から言ったときに、基本的な要素を持たない人間にそういう教育をすることは適当なのかということ疑問である。4年間続けたわけだが、職場体験の延長線上で、適度な形でやるというのは良いと思うが、受験もある中、3年生でやるのはどうかと私自身は感じている。4年間取り組みとしてやってきて、ただ止めてしまえばいいという事ではないと思うが、いろんな面で検討する時期にきたと思っている。</p> <p>委員 長 始めに聞いた時は、非常に面白い取り組みだと思った。今までに無い取り組みということで、発表も期待して見たわけだが、結果的にびっくりするようなものは出てきていないが、私はそれを発表するまでの過程が非常に良かったのではないと思う。目に見える成果がどれだけあるかということ重用だと思うが、4年間だけの取り組みだけで終わったのでは意味が無い。伝統として繋いでいく価値があるのか、それとも方向転換をするかという当りはよく考えなければならない。</p> <p>教 育 長 町内の事業者。この中学生の取り組みを評価する度量がどの程度あるのかということについては、非常に疑問である。町内の事業者ではなく、西部地区の事業者或は青年会議所というようなところからピックアップして、見てもらうことの方が、社会的な評価・地域との結びつきを強めるということから言うと、その方が良いのかなと思う。やはり根本的に議論をする必要がある。</p> <p>1つ問題提起をしたい。全国的に保護者の立ち居地が問われている時代だと考える。例えば特別支援の教育の問題についても、発達障害といわれる遺伝的なものが主の要因なのかということ、そうではないと思う。家庭の環境、もっと言うと親の言動、これが結果的には</p>
--	--	---

	<p>情緒不安という形で子どもたちに出ていると思えるケースが多々あると感じる。学力向上の問題でも、日南町の子どもたちは、バス通学など学校外での時間的な制約がある。塾や家庭教師というものを含めても、家庭で過ごす時間が他と比べて少ない。そこを有効活用することについて、保護者・家庭というのがどの程度考えているのかということについては、一定の疑念を感じている。日南町には教育に対して独特の思考があり、大多数が教育に対してあまり熱心ではないと感じる。教育委員会から投げかけて変えていけば良いというような状況ではない。核家族が増える中で、教育行政が家庭に踏み込んで修正することは、権限的に難しい社会になっている。この問題について皆さんにご意見頂きたい。</p>
<p>委 員 長</p>	<p>我々は年に数回学校に訪問するだけで、子どもの実態が把握できていない。もっと踏み込んで見ないと子ども達の状態は掴みきれない。日南町だけの問題ではなく、多くの地域で、家庭で子どもを十分にしつけ・教育できていない状況である。実際に地域を見ていても、共働きで子どもをほったらかす状況が見て取れる。家庭の力が失われていることは間違いない。それが子どもに影響している。私たちの地域を見ても、子どもが少ないだけに、この問題について話し合うということもされていない。</p>
<p>教 育 長 委 員 長</p>	<p>地域で議論するにしても、集まる人・話の内容全てにおいて固定化している傾向がある。乗り入れ授業について、続けていく上でどこに大きな障害があるのか。更にそういう形のもので広がっていくと思うが、課題としてどのようなものがあるのか。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>乗り入れ授業については、一貫教育というもののメリットを出すということで、取り組んだものである。教員の力量の格差というものが非常にある。小学校の先生方の捉える視点、どこを目標にして授業するのか、事業数の実態、というものを中学校の先生方が非常によく理解できた。先生方の小学校と中学校の時間の差というものが非常に乗り入れを実施する上で苦勞した点である。4年間実施して、中学校の教員配置の中に意欲と余裕がないと成り立たないことだと感じる。日南町での実施は、一定のところまで来たと感じている。それよりも、TT授業などに工夫を凝らしてやっていく方が、更に効果が出てくると考</p>

社会教育について	委員	<p>えている。教職員の配置人事を見ながら運営してしかないといけないと思っている。</p> <p>TTの授業を見させていただく中で、本当にTTの目的が活かされているのか、その効果が期待できるのか疑問である。先生方がどういう受け止め方をしてやっておられるのか。</p>
	教育長	<p>TT授業について、当初狙った成果を挙げているかということ、私はまだ挙がっていないと感じている。理由として3点ある。3つに分けることの意義、自分の役割は何なのかを担当する教諭が明確に理解していないことが1つ。そして、子どもたちが3つに分ける、ランキングするということの意味、どこに立ち居地があって、自分はどこに行くべきなのかということが明確になっていない。さらに先生方は全体の教育の中で自分が担うべき役割、自分の努力によって達成されるべき成果、これらが本当に十分されているのか。この3つのことが明確になった時に初めてTT授業の成果が出てくると考える。そういう面ではまだ十分ではないと感じている。</p>
	委員長	<p>小中の先生が相互に乗り入れていくというのは、教科指導という面だけでなく、他の面でも非常に意味があることだと思う。本人の指導力を高める上でも非常に意味がある。少なくとも小学校の5・6年に専門教科の先生を入れて、5・6年生の担任の先生の負担が減ってくるので、その先生が中学校へ行くことも可能だと感じる。1年生から4年生までぐらいは、十分担任の先生で指導は出来るだろうと思うが、5・6年生になったら、専門教科の先生を少しずつ入れていくというようなことを、考えていく必要があるのではないか。このことについては今後じっくり検討していきたい。</p>
	委員長 社会教育	<p>社会教育について説明を求める。</p> <p>※ 資料に基づき説明</p> <p>1 活力ある町をつくる生涯学習の環境整備と活動支援</p> <p>学習の機会・場の充実ということで、町民のニーズや年代層に応じた学習機会の提供を行なっている。高齢者学級・人生学園の支援の実施について、運営と各部門に分かれての学習を行なっている。町民大学による生涯学習の場の提供は毎月開催しており、平均40名</p>

の参加がある。開催するだけでなく、いかに町民の方に興味関心を持っていただくかが重要である。学習者や団体相互の連携、合流促進と成果の還元、状況の発信として、にちなんふるさと祭り・生涯学習まちづくりフォーラムを2日間開催した。日南町の文化芸術を後世に伝える為の文化芸術活動の推進及び継続に掛かる取り組みの推進について、日南町文化協会への支援で、今年度から日南町美術館での日南文化展を新たに開催した。日南文化の発信も行なっている。社会教育推進委員による芸術文化活動活性化の推進が行なわれており、町内に出て調査活動を行なっている。195の団体個人のグループがある。今年度の取り組みは全ての交付が終わっていないが、これらの団体に助成金を出す予定である。文化施設の活用と各種機関との連携では、文化の振興充実を目指し日南総合文化センターとの連携を図った。社会教育委員会議では、社会教育委員の意見を取り入れながら社会教育の充実を図りたいと思っている。

2 青少年の健全育成・家庭教育の充実

青少年の団体育成及び人材育成では、青少年健全育成協議会を開催し、生山駅であいさつ運動、商工会祭でのパトロール、夏休みのラジオ体操等の併発や広報等を行なった。また、成人式の運営企画を新成人で行なってもらい開催をした。子どもの体験活動の実施では、小学生を対象とした体験活動を行い集団活動の基礎的な力と社会的な規範意識を養い、夏休みにカヌー・クッキングを行なった。また冬休みにはクッキング・お正月飾り・書初め等の体験活動を行なった。

3 地域に根ざした文化活動の促進と郷土の文化財伝承

郷土の歴史、文化・芸術に関する資料の保存と調査研究推進については、古文書や歴史資料のデジタル化を行なった。文化財・遺跡調査、保存は2箇所行なった。郷土資料館の整備活用について、町内にある民具や歴史資料の整理保存と管理活用を図り、郷土資料館への資料の展示を行なった。

<p>委員 長 教育 長</p>	<p>4 健康・体力づくり、スポーツ活動の推進</p> <p>町ぐるみによる健康体力づくりの推進では、スポーツ推進委員のスポーツ普及活動について定例会を7回実施した。体力調査の実施や2年に1回の体育祭も行なった。各団体の活動強化について、町体協・郡体協・スポ少への補助金交付を行い、各スポーツ大会の開催も実施した。文化団体にも言えることだが、高齢化や少子化に伴って活動が尻つぼみになってきている。社会体育施設の運営管理について、調整会を行い各団体への連絡調整を行なった。来年度の重点施策として、活力あるまちづくりのための社会教育の活性化では、文化協会をはじめ町内の文化団体の活性化を図るということに重点を置きたいと考えている。問題として、高齢化による参加者の減少、少子化による構成員の減少がある。活性化は難しいが尻つぼみしない活動にしていきたいと思っている。</p> <p>説明があったが、質疑意見はあるか。</p> <p>助成制度を創設して町内の動きが地教委としても把握できるようになった。実際には色々な活動があるが、教育行政なり一般行政に伝わっていない。まずはお金で支援していくということをしていかないと、過疎少子高齢化の現状では社会教育は発展していかない。少子化・高齢化の中で、特にスポーツの関係で体育協会の動きにしても、硬直化している。組織の活性化に手をかけていないため、指導者としてリーダーとして活躍する人が育っていない現状がある。例えば70歳定年制などして、人心を一新していくことが必要だと考える。少子化で1つのスポーツ団体が成り立たない状態になっている。今後の方向の一つとして広域化し日野郡でスポーツ少年団のチームを組んでやっていくことも検討しなければいけないと思う。そういう反面、サッカーや陸上は非常に一大勢力を持っている。そういうことから、枠組みを外して広域化でやっていく形を取らないと少子化には対応できないという側面もある。文化施設・体育施設が老朽化してきている。特に体育施設については、よその施設と対比しても小規模で、公式競技が出来ない状態である。その当りにつ</p>
----------------------	---

	委員長	いても、何らかのことをしなくてはならない状況ではあるが、人が減少する中で使用する住民は誰かということもあるので、そこも考えなければいけない状況である。 以上で、学校教育・社会教育の聞き取りを終了する。
--	-----	---